

お知らせ

2021 年 5 月 14 日
関西ペイントマリン株式会社
営業本部

日刊海事プレスに弊社燃費就航解析システム 「KPM-PASS」の紹介記事が掲載されました

4 月 20 日付でプレスリリースいたしました弊社燃費就航解析システム「KPM-PASS」の取材記事が、日刊海事プレス 4 月 21 日版に掲載されました。

GHG 規制の議論が本格化する中で本システムを有効に活用し、これから弊社製品を採用しようとお考えのユーザー様にご提案申し上げるツールとしての注目度の高さの証しとも言えると考えます。ご興味をお持ちのユーザー様はぜひとも弊社担当営業までお申し越し下さいますようお願い申し上げます。

尚、掲載記事の転載につきましては発行元であります株式会社海事プレス社様から本件に関する許諾をいただいております。

☆本件に関するお問合せは担当営業の他、弊社ホームページでも承ります。

ホームページ URL <https://www.kp-marine.co.jp/>

以上

CO₂排出量計測など支援

■ ウェザーニューズがウェビナー

気象情報会社のウェザーニューズは20日、海運業界が求められる環境対応と対応策に関するウェビナーを開催した。岩佐秀徳執行役員・航海気象事業主責任者が、IMO（国際海事機関）などのGHG（温室効果ガス）規制の動向や、効率運航やゼロエミッション船の導入など海運が取れる環境対策、荷主・船社・船主の取組課題などを解説。その上で、CO₂（二酸化炭素）排出量の計測業務の効率

化や環境に配慮した運航を支援するサービスを紹介した。

CO₂排出量の計測業務の効率化サービスとして、「カーボン・インテンシティー・モニタリング（CII）サービス」の開発を進めている。本船からのイベントレポートを精査した上で、航路別にEEOI（エネルギー運航効率指標）などを計算することができるもの。



また、海運会社は、自社船隊のパフォーマンスを市場の同型船と比較することも可能になる。

燃費就航解析システムを開発

■ 関西ペイントマリン、データ解析サービスを開始

関西ペイントマリンはこのほど、独自の燃費就航解析システム「KPM-PASS (Kansai Paint Marine-Performance Analyzing&Solution Service)」を開発した。20日には、同システムで運航データを分析・検証し、解析レポートを顧客に提供するサービスを開始。就航性能・燃費性能や航路解析の「見える化」を図る。就航船の推進性能は船底の汚損によって低下することが知られ、業界テーマである実燃費の改善に向けては、船底状態の改善が重要課題。同社の知見や蓄積データに基づいた分析を顧客に提供し、より適した船底防汚塗料の提案に結び付ける。

IMO（国際海事機関）ではGHG（温室効果ガス）短期対策の議論が続いており、最短で2023年1月に現存船燃費性能規制（EEXI）と実燃費格付け制度（CII）の2段階の規制が始まる見込み。船舶の推進性能には、船底部分の生物汚損の状態が大きく影響することから、同社にも燃費低減や環

境規制対応に関する要望が多く寄せられてきた。「防汚塗料のパフォーマンスが良好でなければ船の推進性能は大きく低下するため、GHG規制に直結する問題になってきた。特にCIIでは、生物汚損などが直接関わってくる」（同社技術本部の松原義朗副本部長）。

関西ペイントマリンが開始したサービスは、同社製の低燃費型外航船舶用船底塗料をこれから採用する顧客を対象とした燃費解析。必要なデータを提供してもらうことで、各船の就航状況に応じた最適な塗料を提案する。従来の就航解析や馬力解析といった手法も用いるが、今回は「理論値」のみに軸足を置いた手法からは脱し、「実海域での長期防汚性能」を根拠とした塗料の提案に結び付けることを狙う。

KPM-PASSは、主に「推進性能解析システム」と「航路解析システム」で構成する。推進性能解析では、船舶の就航データを同社独自の解析プログラムに入力すること

で、データを自動的に処理し、解析レポートとしてアウトプットする。解析するのは、船速変化率や燃費変化率、主機出力変化率など。工程をソフトウェア化することで短時間でより多くの計算が可能となり、例えば56カ月運航した船舶の700行近いデータでも、解析自体は約1分程度で完了する。

就航解析では、提携関係にあるノルウェーの船用塗料大手ヨートンが独自に開発・活用するシステム「Jotun Voyager（ヨートン・ボイジャー）」を使用する。解析の主要な出力項目は、航路、船速分布、水温分布、各平均値など。推進性能解析と異なり、停泊時や荒天時のデータも解析対象とする。従来、就航船に対する船底塗料のスペック決定に際しては、顧客に船舶の就航の実態を聞き取り調査した上で、それに見合った船底塗料の製品を選び、推奨している。今回、ヨートン・ボイジャーで就航条件を一気に「見える化」することで、提案塗料のミスマッチ回避などを図る。

また、同社は船舶の種類や採用された船底防汚塗料の種類、航路

情報、塗料のパフォーマンスなどをデータベース化しており、このデータベースと解析データを照らし合わせることで、より実海域性能を反映した塗装仕様について相談することも可能だ。なお、データベースはアドバイスへの利用の

みで、データ提供は行わない。

新システムは、5月に愛媛県今治市で開催される海事展「パリシップ2021」にも出展予定だ。東賢一営業統括部長は、「今後、周知を図り、興味を持つ外航船主から声をかけていただきたい。こうし

た仕組みの活用で、従来は感覚的だった塗料の効果を確信していただくきっかけになる。サービスを通じて当社塗料の信頼性をさらに高め、塗料の販売が広く増えることを期待したい」と語る。

輸入や空コンテナの大幅増続く

■北米西岸各港、3月のコンテナ取扱量

今年3月の北米西岸米国・カナダの主要港湾コンテナ取扱量は、各港で実入りの輸入と空コンテナの輸出(回送)の大幅な増加が続いた。特に米国最大の取扱量があるロサンゼルス(LA)港では、前年同月に新型コロナウイルスの影響で減少した反動があるものの、実入り輸入が2倍超の増加となった。カナダ側でもプリンスルパートおよびバンクーバーがそれぞれ実入り輸入で5割超の増加を見せた。

取扱量を港湾別にみると、LA港は前年同月比113.0%増の95万7599TEUとなった。8カ月連続の増加であり、3月単月で過去最高となった。内訳は実入りで輸出が1.5%増の12万2899TEU、輸入が122.5%増の49万115TEU。輸入が急増している。また空コンテナは218.6%増の34万4585TEUと3倍超の増加となった。

LB港は62.3%増の84万387TEUだった。2020年12月以来、単月では過去最高を更新している。内訳は実入りで輸出が3.9%減の13万

9710TEU、輸入が74.0%増の40万8172TEU。さ

らに輸出(回送)の空コンテナは122.7%増の27万9016TEUだった。

オークランド港は27.0%増の24万1470TEUとなった。内訳は実入りで輸出が12.4%増の9万4169TEU、輸入が45.5%増の9万7538TEU。さらに輸出(回送)の空コンテナは65.6%増の2万8624TEUとなっている。オークランド港のブライアン・ブランデス海事局長は「船は満船で海上運賃は非常に高く、より多くの貨物を輸送するための空コンテナのニーズは高いままだ。今後数カ月で状況が緩和されることは無い」と指摘している。

ノースウエスト・シーポート・アライアンスが運営するシアトル港・タコマ港は25.0%増の33万175TEUとなった。内訳は実入りで輸出が11.6%減の7万154TEU、輸入が

北米西岸各港、3月のコンテナ取扱量

港	輸出(実入り)	前年同月比	輸入(実入り)	前年同月比	合計(空含む)	前年同月比
プリンスルパート	17,648	13.7%	49,135	64.7%	100,444	78.8%
バンクーバー	90,784	▲2.1%	169,140	51.9%	332,257	39.8%
シアトル・タコマ	70,154	▲11.6%	139,914	66.5%	330,175	25.0%
オークランド	94,169	12.4%	97,538	45.5%	241,470	27.0%
ロサンゼルス	122,899	1.5%	490,115	122.5%	957,599	113.0%
ロングビーチ	139,710	▲3.9%	408,172	74.0%	840,387	62.3%

(単位:TEU)

66.5%増の13万9914TEU。また輸出(回送)の空コンテナは115.9%増の4万7867TEUとなっている。また内航として、アラスカが1.3%減の5万1801TEU、ハワイが23.8%増の1万2039TEUだった。

カナダ・プリンスルパート港は78.8%増の10万444TEUだった。内訳は実入りで輸出が13.7%増の1万7648TEU、輸入が64.7%増の4万9135TEU。また輸出(回送)の空コンテナは211.2%増の3万3663TEUだった。

バンクーバー港は39.8%増の33万2257TEUだった。内訳は実入りで輸出が2.1%減の9万784TEU、輸入が51.9%増の16万9140TEU。また輸出(回送)の空コンテナは161.9%増の7万988TEUとなった。

社長兼CEOにバーグマン氏が就任

■トラパック

商船三井の北米ターミナル事業会社トラパック(TraPac)は16日、5月3日付でダン・バーグマン氏が社長兼CEOに就任すると発表した。バーグマン氏はこれまで18

年以上に渡って海運産業で勤務しており、ホライゾン・ライズやAPMターミナルズのほか、直近ではロングビーチ港のターミナルオペレーターの1社、TTI(To-

tal Terminals International)でオペレーション担当副社長を務めていた。